

# 常磐会報

第48号  
平成29年12月1日

発行所  
福岡県行橋市南大橋4-5-1  
京都高等学校常磐会

印刷・デザイン  
(株)サラト



## 目次

ごあいさつ	2
平成29年度常磐会総会を終えて	3
進路概況	4
部活動活動状況	4
恩師からのおたより	5
定時制近況報告	5
卒業生からのおたより	6~7
「常磐会報発行協力金」協力者ご芳名	8

母校創立101年

さらなる飛躍

第一歩





ごあいさつ

常磐会会長 若山直樹

(高校22回生)

会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

まず初めに昨年度、母校京都高校の創立100周年記念事業につきまして、会員の皆様には絶大なご支援、ご協力を賜りましたこと、厚くお礼を申し上げます。お陰をもちまして創立100周年記念事業は滞りなく、大成功裏に終えることができました。昨年10月末に挙行されました記念式典は100年の歴史と伝統にふさわしい立派な式典であったと、来賓各位はじめ、関係各位よりお褒めの言葉を頂いております。重ねて、常磐会会員総数も本年3月の卒業生の入会で3万名の大台を超えました。常磐会会員として、これに勝る喜びはございません。母校の隆盛は常磐会の最大の使命です。母校は本年度より次の100年に向けて、新たなスタートを切っております。会員の皆様には今後ともますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本年度常磐会総会の当番回生は、昭和60年卒業の高校37回生、定時24回生、平成10年卒業の

高校50回生、平成22年卒業の高校62回生の皆様です。大村重彦実行委員長のもと、しっかりと準備をして頂きました。特に、本年から記念講演の会場がコスメイト行橋へと変更になりました。収容人数も手狭となり、その準備には大変ご苦労なされたことと思います。実行委員の皆様のご努力にあらためて感謝申し上げます。また、本年度総会にあたり、ご協賛頂いた皆様、この経済情勢下、多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。

皆様の厚意は本総会の運営、また現役高校生への教育活動の援助にと大切に使用させて頂きます。最後になりますが、母校京都高校は現在、県下数少ないスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、世界にはばたくグローバルな人材育成に取り組んでいます。常磐会としてもしっかりと支えてまいりたいと思います。新たな100年に向かって、母校京都高校のますますの隆盛と、常磐会のさらなる発展を願い、私のごあいさつと致します。



ごあいさつ

学校長 田中浩子

常磐会の皆様には、日頃から本校の教育活動に物心両面からのご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。また、昨年度は学校創立100周年を祝う各記念事業に際しまして、多大なるご高配を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。記念式典を始めとする記念行事では、生徒たちが主体性を発揮して取り組み、立派な姿を披露してくれました。体験を積み上げることに成長していく様子を目にし、頼もしく感じたところです。本年度は学校創立101年であり、職員も生徒も京都高校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぐとともに、新たな歴史を刻む躍進の年と捉え教育活動に励んでおります。

さて、国では加速度的に変化する社会に対応して遅く生きる人を育てるために教育改革が推進されています。そのため、高等学校教育においても、生徒一人一人が21世紀の担い手として成長するために必要な資質や能力を身に付けることが強く求められています。そこで本校では、文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)研究指定を受け開始した平成27年度から、学校の将来ビジョンを「地域のみならず世界を舞台に活躍する将来のグローバル・リーダーの育成」として掲げ、授業や学校行事はもとより部活動などにおいて生徒の主体性を育む教育活動を展開しております。

昨年度は、卒業生2688名の内1066名が国立立大学に、難関私立大学にも多くの生徒が合格しました。また部活動等では、陸上部走り高跳びで

インターハイ出場、吹奏楽部打楽器アンサンブルコンテストで九州大会出場、高等学校総合文化祭弁論部門で九州大会出場を果たすことができました。さらに本年度は現時点で、高等学校総合文化祭弁論部門及び囲碁将棋部門で宮城県で行われる全国大会への出場権を獲得しています。多くの生徒が部活動に加入し、放課後の限られた時間の中で生徒と職員が一緒に汗を流している姿は、まさしく文武両道の校風から成るものであります。

本年度は、目指す生徒像を「志をもって意欲的に学ぶ生徒」「自律心とおもいやりの心をもつ生徒」として「困難に立ち向かうことができる逞しい生徒」とし、全職員一丸となってその育成に努めてまいります。また、SGH(スーパーグローバルハイスクール)も今年で3年目を迎え、5年間の研究指定終了後もグローバル人材の育成を旨とした特色ある教育活動を継続すべく、さらに事業内容の充実を図っているところです。

今後も全職員で力を合わせ、百年の歴史ある伝統校として質の高い教育を提供し、かつ生徒が勉強や部活動および学校行事に主体的、積極的に取り組むことができる教育環境づくりに尽力いたします。

おわりに、常磐会の皆様ますますのご健勝とご活躍を心から祈念しますとともに、母校の教育活動に對しまして変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。現状報告とさせていただきます。



# 平成29年度 常磐会総会を終えて

平成29年度常磐会総会実行委員長 大村重彦

常磐会員の皆様、京都高校関係者の皆様、地域住民の皆様、2017年度常磐会総会実行委員長、高校37回生の大村重彦です。

今年度実行委員会である、高校37回生、50回生、62回生、定時24回生を代表してご挨拶申し上げます。

常磐会は、京都高校卒業生の同窓会として、毎年4世代の回生から組織され運営と親睦を図ります。毎年違う顔ぶれで行われますが、先輩方の熱い想いを絶やすことなく、母校の発展に寄与する目的で活動を継続しております。

初めて当番回生を経験した時は、分からないまま何も出来ずに終わってしまいました。それでも先輩方は私たちが可愛がっていただいたことを思い出します。あれから25年、62回生に当時の自分の姿を思い浮かべながら、伝えていくことを考えております。

さて、京都高校におかれましては昨年、創立100周年を迎えました。年間を通じて多くの記念事業が開

催され、常磐会総会も盛大に行われました。高等女学校として創立して以来、卒業生も三万人を突破し、内外を問わず、あらゆる分野で活躍されております。

今年度の実行委員会は、次世代の100年に向けてスタートの年となり、講演会・総会・懇親会も、次年度以降の二本となるべく、実行委員会を開催してまいりました。

拠点を新たに行橋コスモイトホールに移行すること、遠来者の方々の配慮のため時間帯を早めること、豊津高校（育徳館）錦陵同窓会とのエールの交換、その他など。

講演会は、戦場カメラマン渡部陽一さんです。今日の日本は平和で飽食の時代を迎えております。その反面自己中心的な考えによる一部の人たちによる凶暴な犯罪・事件が後を絶ちません。そこで「生きるということ、世界からのメッセージ」という演目で世界の現状を講演していただきます。

世界各地にある戦場の悲惨な地域を見てまわるも、優

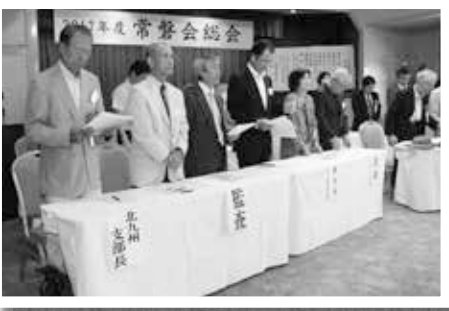
しい口調で語りかけてくれる渡部陽一さん。この度は戦場へ取材に向かう日程を変更し、常磐会のために行橋へ講演していただけたとのこと。一人でも多くの方に講演会に参加いただければと思います。

そして、実行委員会の運営にあたり、景気低迷のなか貴重な協賛広告ならびに寄付金をいただきました常磐会員様、地域の企業やお店の皆様、誠にありがとうございました。

今後とも、引き続き常磐会の運営にご協力をお願い申し上げます。

また、この常磐会総会誌を手にする皆様には、可能な限り、協賛していただいた企業やお店をご利用いただければ幸いです。

最後に、京都高校・常磐会・地域の皆様のますますの発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



進路概況

平成28年度 進路指導主任 仲江 聖吾

昨年度は、一昨年度より1クラス減の7クラスでしたが、前年とほぼ同数の106名の国立大学合格者をだすことができました。後期日程や、中期日程まで、最後まで粘り強く頑張った成果です。昨年度はAOや推薦入試での国立大学の合格者が24名にのぼっています。特に九州大学の21世紀プログラムや理学部、佐賀大学医学部、九州歯科大学歯学科など難関大学・学部にも合格しています。これらの難関の推薦合格者に共通していることは、授業を中心とした予習・授業・復習のサイクルが定着していたことです。部活動との両立を果たし十分な学力をつけたいた者や、大学などが主催する研修プログラムに積極的に参加し課題解決力や表現力を身に付けた者などが合格を勝ち得ています。

最後にになりましたが、常磐会におかれましては、日頃より本校教育にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。今後とも、引き続きご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

薦の枠の増加に伴い、受験チャンスのひとつと考えるようになってきたのかも知れません。

高大接続改革

文部科学省は2020年度(現中学3年生)から実施する「大学入學共通テスト」の実施方針案を発表しました。数学・国語での記述式問題の導入、英語での民間試験の導入などが主な変更点です。また幾つかの問題点もあり、今後の発表を注視していきたいと思ひます。

下図は、本校の国立大学推薦合格者数の推移グラフです。年々増加していることがわかります。しかし、ここ数年、受験者数は増加していません。ままでAOや推薦を考えると成績上位層が、AOや推



部活動活動状況

主な戦績 \*平成28年4月～29年3月までの期間での県大会以上

【体育部】

陸上部

- 福岡県高等学校新人大会福岡県予選
男子走高跳1名、男子八種3名、女子七種1名
福岡県高等学校学年別大会福岡県予選
男子走高跳1名、女子走高跳1名、女子三段跳1名
全国高校総合体育大会福岡県予選
男子4×100mR、男子4×400mR、男子走高跳2名
男子三段跳1名、男子砲丸投1名、男子円盤投1名
男子八種2名、女子七種1名
全九州高等学校体育大会秩父宮賜杯
男子走高跳1名【6位入賞】
全国高等学校総合体育大会秩父宮賜杯【インターハイ】
男子走高跳1名【出場】

男子バスケットボール

全国高等学校選抜優勝大会福岡県予選大会出場

剣道部

福岡県高等学校剣道新人大会 個人戦1回戦出場

卓球部

国民体育大会福岡県予選 女子シングルス1名
全国高等学校選抜大会福岡県予選 女子シングルス1名

【文化部】

吹奏楽部

- 平成28年度北九州吹奏楽コンクール
金賞受賞 県大会出場
第32回福岡県吹奏楽コンクール 銀賞受賞
第31回福岡県高等学校総合文化祭 吹奏楽部門
福岡県大会出場 優秀賞受賞
第10回福岡県アンサンブルコンテスト
打楽器四重奏 金賞受賞 九州大会出場
第42回九州アンサンブルコンテスト
打楽器四重奏 金賞受賞

美術部

平成28年度福岡県高文連美術・工芸部門
福岡県大会 優秀賞2名

放送部

平成28年度福岡県高校放送コンテスト 朗読部門
県大会出場

部員数

Table with columns: 部活動名, 男子, 女子, 計. Rows include 体育部 (バレーボール, バスケットボール, etc.) and 文化部 (演劇, 華道, etc.).

Summary table for 体育部・文化部加入率 (%) with columns: 男子 (67.8), 女子 (88.1), 計 (79.3).

平成28年度 国立大学合格者数 (既卒生を含む)

Large table showing university names and counts for national universities, categorized by region like 山口, 九州工業, 長崎, etc.

平成28年度私立大学合格者数

Large table showing university names and counts for private universities, including 福岡, 九州産業, 西日本工業, etc.

上級学校合格状況・就職状況

Table comparing 平成28年度 (Current Year) and 現役 (Current Year) with columns for 国立大学, 公立大学, 私立大学, etc.



恩師からの  
おたより 1



37回生の思い出

2組担任

畦津幸徳先生

高等学校社会科「政治・経済」の教員として五校目に赴任したのが、京都高校でした。夫々に特徴がありましたが、現在でも印象に残っているのは京都高校（本校）です。本校は、大学進学にウエイトをおいていることを赴任当初から知らされていました。朝、始業時のホームルームで実施される小テスト（主に漢字テスト）が終了すると同時に点検や見直しを行い、最後に家庭学習記録を提出させて、朝のホームルームを終了するという習慣が確立されてい

ました。各授業では始業五分間行動座席に着席し教科書・ノート・筆記用具を机上に必ず置かせている。また、テスト関係では、中間・期末や校外・対外模試の点検、見直しを必ず行う習慣がありました。大学受験の引率で忘れられないことがあります。熊本大学受験の前日に一人の受験生がボクシングのマネをしていて手を痛め、藤永先生が病院に同行して事情を説明して治療をして頂き、なんとか受験できる状態となったことです。引率していた我々は、可否の結果を心配していましたが、合格の知らせが届きました。また、新入生の四月の「英彦山青年の家」における研修の思い出として、英彦山の山頂に到着し昼食前

に全員集合させ、山に関するリスク等の注意をしている間に、生徒の弁当をカラスから奪い去られたことが記憶に残っています。もう一つ、夏休みの学年合宿キャンプの久住登山では、山なみハイウェイ側からの急な登山道を歩き、休憩を取りながら途中で昼食をし、午後には山頂へ到着しました。山頂から東側に由布岳、南側には阿蘇という眺めはずばらしく、気分爽快でした。法華院山荘に向け下山の途中、盆地状の箇所には、かつて本校の先輩が霧にまかれ遭難した追悼碑に一礼、その後、山荘のキャンプ地に到着、各班はバンガローで夕食を済まし、登山の疲れもあり全員すぐに就寝しました。夜半頃から天気が急変し、バンガローの屋根を叩きつけるような雨でした。早朝頃には、バンガローの柱が流された班の生徒を窓から脱出させ、全員無事に山荘まで戻ることができ安心したことが記憶にあります。

私のことですが、本校を退職する二ヶ月前から大病を患い、今日まで、小倉記念病院や行橋厚生病院等に治療や検査に通院する日々です。最後に本校の先生方や同窓生の皆さま方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

恩師からの  
おたより 2



37回生と歩んだ3年

5組担任

藤永義香先生

皆様元気ですか！退職して早くも14年になります。今、全身に痛みが走っています。日頃の怠けが原因で体育教師にあるまじき毎日、身体のストレッチもせず10年過ごしていたら色々な部位に激痛が走るようになってきました。少しばかりの農作業は、全身運動にもならず役に立ちません。

先日、久しぶりに京都高校へ立ち寄りました。体育館へ行くと、37回生の玉江君が京都体操の指導をしているのを見て、昔の自分を思い出しました。竹刀で床をコンコンと鳴らし、何回も繰り返していたのが昨日のように思い浮かんできました。当時の生徒も一所懸命に頑張り続け、体育大会で立派に集団発表する姿が私にとってかけがえない皆勤賞メダルとなっています。入学するとすぐ英彦山での体験学習、そこでも徒手体操、集団行動、友情を育み、規律を身につけ、そしてリーダーが育つ。また、卒業アルバムを開くと数々の行事が載っています。クラスマッチ、文化祭など。特に希望者で参加した九重キャンプでは、何事も自力で行動、時には協力し、そしてできあがった野外炊飯。テントでは、雨の中でも執念で薪を燃やしてなんとか作った夕飯を囲み「いただきます」の声が夕闇のキャンプ場に響く。あの気力・精神力が、最後の入試や就職試験へと力が発揮できた要因だと思えます。

京都高校初のスキー研修を取り入れた修学旅行、寒さと雪の多さに驚き、そして、練習のたびに上達していく実感とともに楽しくなり、もう一日…と後ろ髪を引かれながら学校へ。現実にもどればいつもの8時間授業、そしてテスト。誰かが話していた「カラスが鳴かない日があってもテストがない日はない」と。このような高校生活3年間の節目で書いてもらった感想文、毎日の学級日誌、あるいは学校活動の記録、そのほか、生徒に係わる文書など。先日、山の畑で数日かけすべて燃やす。思いのほか時間がかかったのは、時々読んでは昔を思い出してはぼんやり…。今は趣味の篆刻（てんこく）を毎週火曜の夜に大分県日田市へ習いに行っています。「百年 祝 京都」と刻しました。ボケ防止にと日々努力しております。

卒業生の諸君の悔いのない人生、京都高校の更なる発展、そして卒業生の活躍を中津の空の下で見守っています。皆様と再会するのを楽しみにしています。元気でいてください。



藤永義香先生

定時制  
近況報告

まず、平成二十八年度の生徒の進路状況を紹介します。二十八年度は、四年

修了生が十五名、三年修了生が二名、計十七名の生徒が卒業しました。在学中からの仕事を継続している生徒もいますが、学校を通じての新規就職者が七名、進学者が二名でした。次に、平成二十八年度の特色ある行事・活動をご紹介します。本校で行われた生活体験発表北九州地区大会に三年生一名、一年生一名が出場しました。今までの経験を発表し、優秀賞・努力賞を受賞し、一名は、地区代表として県大会に出場しました。文化部関係では、四月に行われた北九州芸術祭（書道部門）において、三年生三名が特選、六名が入選となりました。また、行橋市人権週間啓発作品（書道の部）では、二年生二名が入選となりました。高文連書道部門授賞作品展においても四年生二名、三年生三名が入選しました。体育関係では、高体連連通部北部ブロック卓球大会に四年生が三名、女子が優勝、男子が四位になり二名とも県大会に出場しました。また秋季大会にも四年生と、一年生が優勝し、女子が優勝、男子が準優勝になり二名とも県大会に出場しました。六月には定時制通信制高校陸上競技大会に三年生が三三メートル障害で二位になり、八月に東京で行われた全国大会に出場しました。本年度は、新入生二十四名を迎え、全校八十三名の生徒数でスタートしました。生徒たちは、仕事に勉学に全力で励んでいます。

卒業生からの  
おたより 1



# 近況雑感

## 卒業から32年を経て

高校37回生 4組 増森珠美



ことも求められません。長期、中期、短期で計画を立てて効率的に課題をこなすという点では、高校時代の鍛錬がいまに役立つているともいえます。

転勤を重ねて現在は大阪に住んでいますが、年に数回は実家のある豊津に帰省します。行橋の駅舎や今川沿いの風景は、自転車で高校に通っていた昭和60年頃に比べると様変わりしましたが、京都高校の周辺は当時の面影を残しています。車窓から、水色のスポーツバッグを乗せて自転車をこぐセーラー服の女子高生を目にする、つい目で追ってしまいます。

高校卒業後に上京して大学で学んだ後、司法修習を経て平成3年に裁判官に任官してから25年以上になります。その間、東京、福岡（小倉）、大阪、沖縄と各地を転々とし、平成25年からまた大阪地方裁判所で勤務しています。これまででもっぱら民事通常事件を扱ってききましたが、時代や地域により事案の性質も様々です。先例や明確な条文の規定がなく、頭をひねって紛争解決のためのロジックを考え出したり、乏しい証拠から説得力のある事実認定をしたりと、思考力の限界を試されるような状況に置かれることもあります。限られた時間内で適切に案件を処理する

大阪では、サザナミインコ、ボタインコと同居していて、朝は賑やかすぎるさえずりに起こされます。裁判官の定年は65歳なので、折り返し地点を過ぎたところです。どこへ異動になるかわかりませんが、いづれまた福岡の地で勤務する機会があればと願っています。



卒業生からの  
おたより 2



# 京都高校

## 卒業生としての思い

高校37回生 2組 義間健二

2017年度常磐会総会のご盛会を心よりお祝い申し上げます。

美しい自然と利便性を兼ね備えた、この行橋市にご縁をいただき、4月1日に副市長を拝命いたしました。気を引き締めて街づくりに取組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

久しぶりに本市に降り立つてみますと、高校時代に旧行橋駅舎から高校までを徒歩で通学していた頃と比べ、行橋駅が高架駅となり、南行橋駅が新設されるなど本市の発展には目を見張るものがあります。

自己紹介としまして、高校卒業後の私の経歴を記載させていただきます。

高校卒業後は県外に進学し、卒業後は、福岡県に土木技術職として就職しました。勤務地は、直方市5年↓福岡市4年↓糸島市1年↓福岡市5年↓篠栗町3年↓直方市2年↓福岡市4年↓北九州市2年（前職）の通算26年間を経て、大学時代を含めると32年ぶりに行橋市にお世話になることになりました。

思い起こしますと、私の高校時代は、進学校である京都高校の「看板」や、時間と費用をかけた電車通学、両親の期待などに気圧されて、成績はいざ知らず「受験戦争」に飲み込まれた3年間だったように思います。

しかし、現在思うに、大学進学・就職・そして今日まで土木行政に関する業務を



「やりがい」を持って続けて来られたのは、京都高校でのご指導の賜物であると感じています。授業の質の高さ、文化系・体育系の部活動も盛んで、素晴らしい校風の高校でした。

常磐会会員の皆さま方とお近づきになったことを契機に、行橋市の様々な魅力が皆さまから教えていただきながら、微力ながら本市の発展に寄与できるよう努力してまいります。皆さま方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。私の寄稿といたします。



卒業生からの  
おたより 3



## 「京都高校との 向き合い方」

高校50回生 1組 井手飛人



正直に言って、ぼくは京都高校が好きではなかった。

ある程度の学力のある当該学区の中学生なら、まア、目指して当然。誤解を恐れず言うならば、決して多くはない選択肢から導き出される当然の進路。そんな中途半端な気持ちで入学したのだから、土台、気持ちが悪くない。

いきおい学業に対する取組姿勢は悪くなり、成績は地を這う。実力テストで360人中358番だった時、「下には下がある」と下卑た幸福感に包まれたのも束の間、テストの日には2名も欠席者がいたりあった！文化祭PRポスターに描いたのは絵ではなく「勉強禁止令」の5文字。嘘偽らざる心の澱が滲み出た。進学校で成績が悪いことがまあ惨めなこと惨めなこと。

とにかく打ちのめされていた16歳の頃。自己肯定感が通減すればするほど、ダメな自分に正直に向き合うのが怖くなる。自分に向き合えないもどかしさが母校への嫌悪感に巧妙に置き換わる。ぼくは盛大に愚かだったのである。

ところが、長じて無性に母校が懐かしい。いつも手を焼いた数宿、英宿、一日一問。早く帰りたくて仕方なかった7限・8限授業。古ぼけてカビ臭い部室。体育館が温かい空気と一体感に包まれたジロージョシダのコンサート。勉強そっちのけで取り組んだキャンペーン実行委員。ブレイク前の養老孟司先生の講演会。多くの生涯の友との出会い。嗚呼、ぼくがどんなにひねくれて母校に無関心を装っていても、この20年間、京都高校はぼくの頭の片隅に着実に根を下ろしていたんだなア。

さてさて、近況報告もせねば。高校時代、学業面で地に墜ちたぼくは、2浪の末、第一志望校に合格。何を思ったか、就職後に大学院まで修了する勉強っぷり。人は変われば変わるものと実感。現在は東京在住、生命保険会社の経営企画部門で、グループ会社の企業価値向上や業務提携先とのリレーション強化、M&A検討等々、得難い経験をさせてもらっている次第。ちなみに、現在の所属部門の担当役員は何と京都高校OB!!これを僥倖と言わずして何と

言う。

不思議な御縁に感謝。  
夢に向かって走ろう。でも夢がない。無理してでも探す? いや、探さない。勝手にしやがれ! そうさせてもらおうよ。

「自信過剰はサヨウナラ」

卒業生からの  
おたより 4



## 総会寄稿

高校50回生 3組 堀大助



時々、ゆめタウン前の交差点で街頭演説をしている。この場所がある意味自分の政治の原点であり、初心に戻る場所でもある。

さて、ここに立っていると、時々、京都高校の後輩たちに出会うことになる。僕らの時とは形は変わったが、赤・青・緑3色のスポーツバッグはすぐに京都生のそれと分かる。調子に乗って僕は、「やあ、後輩!」とマイクで語り掛ける。苦笑いをして多少の愛想を返してくれる後輩はなんとかわいいうつらだ。

他方、敬うべき先輩方も多数。現行橋市長の田中純先輩、山本幸三大臣、松山政司参議員と、僕が身を置く政治の世界にも沢山の京都生が。昨年の100周年記念行事には、NY在住ギタリストの吉田次郎先輩、そして渋谷の街を創り上げていた東急グループの野本総帥と凄い面子。同窓でなければ会えない人ばかりです。

僕がここで言いたいのは、世の中にはいろんな関係性、コネクションってある

けど、同窓・同郷の絆というのは、中でもとても強くて固いものだとということ。10何年かぶりにあつても、「何しよんか、キサン(笑)」の一言でグッと距離が縮まり、その後はあの時のような関係性にすぐ戻れる。何とも心地良い瞬間だ。

僕は今、故郷で県議会議員、そして弁護士として稼働している。どちらもなかなか「やっかい」だが、大変やりのある仕事だ。そして、どちらの仕事でも、京都のセンパイに大きく助けられている。僕のじいちゃんが、「大」きく「助」ける人間になりなさいと名付けた名前だが、実際は、「大」きな「助」けを受けている。そのことについては、なんとというか、素直に嬉しい。助けられるから、助けることができる。

僕らは、後輩として、京都高校の多くの先輩に助けられた。だから、次は、僕らが先輩として、後輩たちを助けられるようになれたら。

先輩後輩の絆を次々に紡ぐ、母校の意気昂し。

